

複合施設でのノーリフティングケアによる一体化へ

～ノーリフティングケアのさらなる浸透と技術力定着にむけて～



社会医療法人天神会 複合施設

こがケアアベニュー大石町
こがケアアベニュー縄手
こがラウンドケア大石町
こがヘルパーステーション大石町
こがデイサービス大石町
こがデイサービス縄手

1. 今年度の取り組み

前年度は

- ・ノーリフティングケアの周知の達成。
- ・入居者様・利用者様への移乗方法の統一、及び介助方法の統一の土台作りが出来た。
- ・研修方法を全体研修と個別研修を行うことで参加率が100%を達成できた。

福祉用具は使用しているかな？
腰痛にならない身体の使い方は出来ているかな？



今年度の目標

- 職員へのノーリフティングケアへの理解確認を行うため定期的なチェックを行う。
- 腰痛調査・ラウンドを行い、さらなる改善にとりくむ(特に入浴介助時)
- 法人内へのノーリフティングケアの普及。

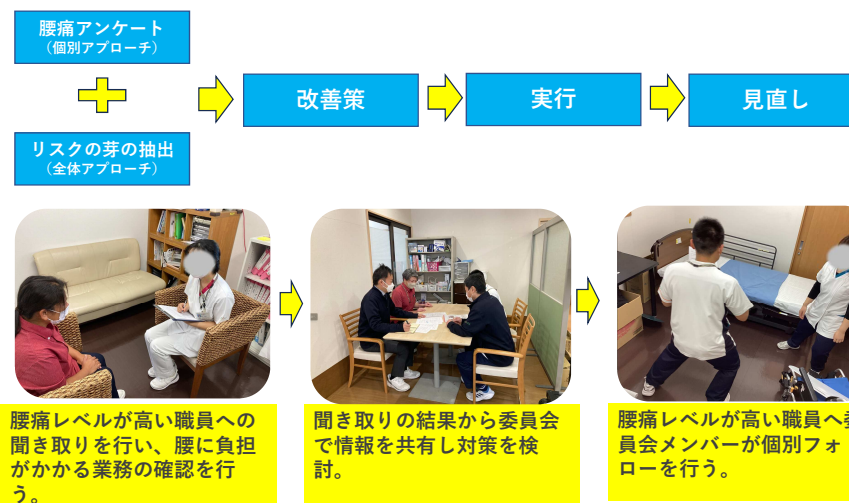


2. 組織体制 (委員会メンバー)



統括マネージャーから各担当者へ指示、進捗状況の確認、相談など
トップダウン形式で行うことでスピーディーに進めることが出来た。

3. 問題点へのアプローチ (腰痛アンケート)



腰痛レベルが高い職員への聞き取りを行い、腰に負担がかかる業務の確認を行う。

聞き取りの結果から委員会
で情報を共有し対策を検
討。

腰痛レベルが高い職員へ委
員会メンバーが個別フォ
ローを行う。

4. 問題点へのアプローチ（リスクの芽の抽出①）

◇職員へのリスクの再抽出を実施。

委員会のメンバーには日々の業務に気になる点、職員へのヒアリングも行い情報を収集した。

ごみ収集ボックスにごみ袋を抱えないといけない

ごみ収集ボックスを変更

ゴミ袋を抱えることがなくなった!

入浴介助、着脱介助の時に腰が痛い。

入浴時に膝パッドとガードナーベルトを着用する

腰への負担が減った!

乾燥機が高い位置にあり腰に負担がかかる

踏み台を導入

無理な姿勢にならない!

社会医療法人 天神会
KOGA

5. 問題点へのアプローチ（リスクの芽の抽出②）

◇抽出したリスクの芽から委員会で改善方法を検討し実践した

掃除の時や食器を洗う時に腰が痛い

ベッドを上げても腰が痛い

転倒した利用者を抱えるのが大変

身体の使い方をマニュアル化する

床走行リフトを導入

2人で抱えないでいい!

こういう風に身体を動かせばいいのか!

社会医療法人 天神会
KOGA

6. 福祉用具の導入

前年度

スライディングボード3種：9個
スライディングシート：6枚
スタンディングリフト：1台



今年度

スライディングボード3種：11個
スライディングシート：12枚
床走行リフト：3台
スタンディングリフト2種：2台

床走行リフト

◇介護度が高い老人ホーム大石町赤番館の1階と2階に設置。

◇デイ大石町にて着脱時・トイレ時の介助のため設置

スタンディングリフト

◇デイ大石町にてトイレ介助のため設置

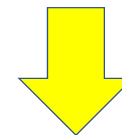
◇デイ縄手にてトイレ介助時のため設置



7. 職員への教育

◇職員へのノーリフティングケアへの理解確認をする

前年と同様、職員が研修に参加できるように大石町地区と縄手地区でそれぞれ2日ほど予定を組んで同じ研修内容の全体研修を実施。参加できなかった職員は個別対応。



最後の研修では職員が身体の動かし方や福祉用具が正しく理解できているかチェック方式で確認。基準点を満たさなかった職員は後日再テストを行い、基準点を満たすまで行った。

参加率は
100%



毎月の勉強会のテーマ


8月：ノーリフティングの概要
9月：リスクマネジメント
10月：身体の動かし方・スライディングシート
11月：スライディングシート・床走行リフト
12月：テスト



8. 職員がノーリフティングケアを意識できる環境作り


Point ▶ 動画をリピート再生

腰に負担がかかる動作、及びその改善できる身体の動かし方をマニュアル化して動画を各事業所にて常にモニターにてリピート再生。




Point ▶ スライディングシートの携帯

老人ホーム、ヘルパー職員に携帯ポーチを支給。ポーチにスライディングシートを携帯させることですぐに使用できるようにした。





Point ▶ 福祉用具を置く場所の統一

福祉用具がどこにあるかわからないということがないように、決められた位置に福祉用具を置くことを徹底。

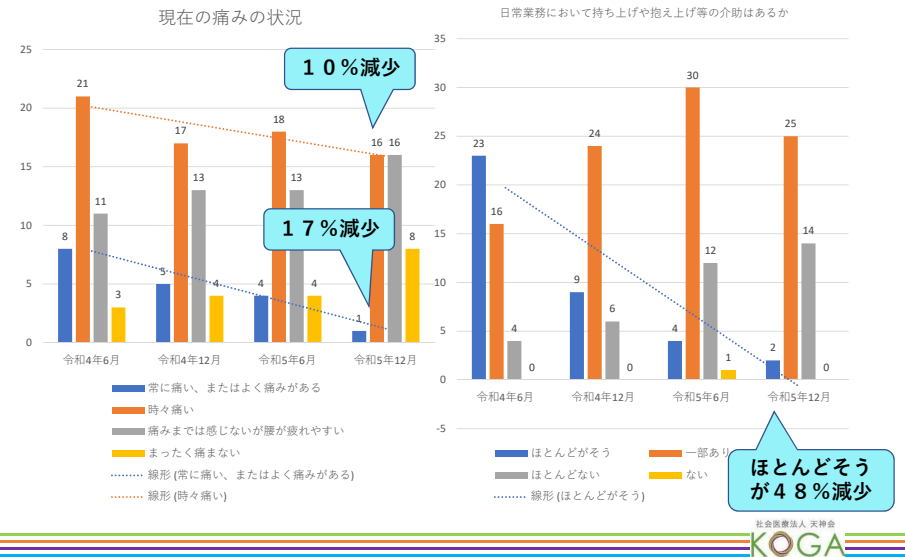


Point ▶ これだけ体操の掲示

職員全員が体操を意識できるように全事業所の至る所に掲示して手が空いている時間に体操を行ってもらったようにした。



9. 腰痛調査



10. 法人内への勉強会

◇法人内での病院、特養、老健、住宅型老人ホーム、訪問介護、デイサービス、デイケアなどで計7回ノーリフティングケアの勉強会を実施。



11. まとめ及び今後の課題

まとめ

- 職員の理解度チェックをテスト方式にすることで、それぞれの理解度を確認することもでき、さらなる技術力向上につなげることが出来た。
- 腰痛アンケートとリスクの芽の抽出により個別面と全体面からアプローチし、また設備面でも改善することができた。
- 法人内（医療・在宅）での勉強会を行うことでノーリフティングケアの重要性を伝えることが出来た。



今後の課題及び目標

- 技術指導者の増員
- 新入職員への教育計画の確立
- 法人内（特に看護）の勉強会を実施
- 一部の職員で福祉用具の使用や身体の動かし方が浸透出来ていないため、個別指導を行い、全体的な改善の底上げを行う。



本事業は、人が中心
次年度は、人材育成に注力